

水俣市

# 淵上毛銭も表彰

初の市政  
功勞者

## 一団体、四人に



故淵上毛銭

水俣市は三百の文化の日に初の市政功勞者の表彰をするが、表彰を受ける一団体、四人のうち「薄幸」の詩人淵上高（毛銭）がいる。

毛銭は大正四年一月淵上吉晴氏の二男として水俣市陣内に生まれ、水俣尋常小から九州学院、青山学院中学部に学んだあと一時は

音楽に志したが、断念。放浪生活、セツルメント運動、労働運動などに情熱を燃やし二十一歳（昭和十年）の秋、股（こ）関節カリエスで倒れ、二十五年三月、三十六歳でなくなるまで病床にあつた。この間「九州文学」「日本談義」などの同人となり詩作を始めている。

昭和十八年処女詩集「誕生」を自費出版、戦後毛銭独特の詩境を開き二十二年夏出版した「毛銭詩集」で現代詩壇へ大きな波紋を投げかけた。

また水俣の文化運動にも手をつけ「青年文化会議」を結成、病床から指導に当たっている。

このほかの表彰はチツソを誘致した前田永喜氏（故人）、初代市長中西孝麿氏（同）、幼児教育に

尽くしている市原キヨさん（セ）、団体の市力ヌー協会など。